

今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年1月）

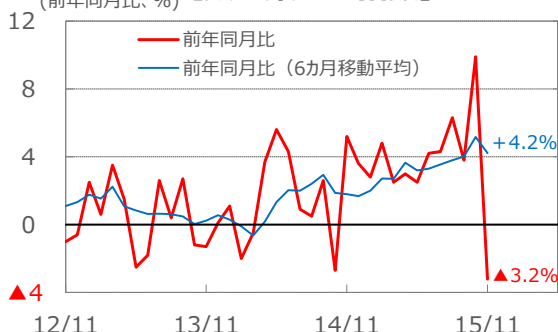
景気は緩やかに加速

ポイント1 生産の基調は底堅く推移

これまでの利下げが景気を下支え

- 15年11月の鉱工業生産指数は前年同月比 ▲3.2%とマイナスに転じました（前月は同 +9.9%）。前年から祝日がずれたため振幅が大きくなりましたが、生産は底堅い基調が続いています。
- 物価の落ち着きを背景にインド準備銀行（RBI、中央銀行）は15年1月から9月まで4回にわたり合計1.25%の利下げ（現在は6.75%）を実施しており、景気回復の主な下支え要因になっています。

【鉱工業生産指数】



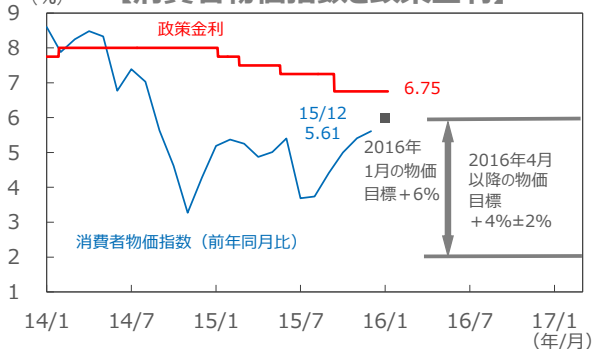
(注) データは2012年11月～2015年11月。
数値は2015年11月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率は緩やかに上昇

次回も政策金利据え置きの見込み

- 15年12月の消費者物価指数は前年同月比 +5.61%となりました。RBIは、食品価格の値上がりなどで上昇が続くものの、物価目標（16年1月、同 +6%以下）を達成できると見えています。
- RBIは、15年12月の会合で政策金利を6.75%に据え置きました。RBIは、金融緩和姿勢をとりつつも、食品、原油、インドルピーなどの不安定な動きを警戒しています。物価上昇率は低位ながら緩やかに上昇しており、市場ではRBIが2月2日の次回会合でも政策金利を据え置くと見方が大勢です。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 政策金利は2014年1月31日～2016年1月25日。
消費者物価指数は2014年1月～2015年12月。
(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行 (RBI) のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

2月下旬からの「予算国会」に注目、財政面での景気下支えに期待

- 2月下旬から5月にかけて、来年度（16年4月～17年3月）予算を審議する国会が開催される予定です。経済構造改革（モディノミクス）の目玉とされる物品・サービス税（GST）法案も審議される見込みであり、会期内の成立により経済成長が中長期的に引き上げられることが期待されます。
- また、予算案には国家公務員の給与等の総額が現状から2割以上の増加となる案が盛り込まれる見込みです。これが決定されると州や自治体も追随して物価押し上げ要因になると見られ、利下げ期待は後退すると思われます。一方、景気回復基調を確かなものとする要因として期待できそうです。

ここも チェック!

2016年 1月25日 インドの「公務員給与」引き上げに注目（インド）
2015年12月25日 2016年のインド経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。